

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地誌学 (Regional Geography)		
ナンバリングコード	E21515	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	選択: 教職 教職関係科目(必修): 中学校教諭一種免許状(社会) ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00551	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	本講義では主として中国、インド、日本を取り上げるが、新聞・テレビ等で得られるこれらの国々に関する報道を日常的に把握する努力をして下さい。また、「地理学概論A」および「地理学概論B」を合わせて履修することを希望します。 正当な理由のない、遅刻・欠席・途中退席は認めません。また、座席指定は行いませんが、適切な間隔を空けて着席するとともに、授業に集中し、ディスカッション等の活動への積極的な参加を求めます。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2023』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論A, 地理学概論B		

○基本情報							
授業の目的	自らの出身地や郷里などを他の地域の人に正しく理解してもらいたければ、自らが他の地域をよりよく理解しようとする姿勢を持たなければならない。地誌学とは地域の特質を理解し、その原因や背景を知ることである。しかし、それは単に、どこに何があるといった断片的知識を集積することではない。地誌学を学ぶことは、地域の特質やその原因などを理解することを通して、そこに生きる人々や社会をよりよく理解することでもある。このことは、本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことに繋がる。 なお、本授業科目は、中学校教諭一種免許状(社会)取得のための必修科目である。						
授業の概要	本講義の第3回までは、本学が所在する大分市や隣接する別府市を取り上げるなどして、地誌学とはどのような学問なのか、自然環境がどのように地域の特質を形成することになるのかを理解する。その後、中国、インド、日本を取り上げる。日本を取り上げるのは、私たちが暮らす身近な地域を客観的に捉えるための視座を養うためである。中国とインドは、ともに人口大国であり、今後の世界の政治経済的側面において主導的立場を果たすとみられる。両国をぐくわずかのキーワードでしか認識していない人も多いが、自然環境やグローバルなスタンス、歩んできた道に基づき、それぞれ独特の特徴を有する。三つの国を比較対象として地誌学的知識や方法論を身に付けることは、近い将来、直接的・間接的に日常生活や仕事の場で共に生きていくことになる世界各国の人々の行動様式やメンタリティを理解することにもつながる。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「ディスカッション、ディベート」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	地域に関するニュース・話題に関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	対象とする国や地域に関する基本的な知識を理解することができる。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な地図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地域の現状や変化の背景や要因を考察することができる。	10点	5点	5点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
対面・オンラインの開講形態に関わらず、双方向授業を行うために、あらかじめ指定したページの教科書の予習が行われていることを前提にします。また、授業においては、教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否か、ディスカッション等の活動への参加状況も評価の対象とします。 ワークシートの末尾に、授業で理解したこと、疑問・質問を記入する欄を設けますので、授業において理解できなかったポイント等を記入して下さい。ワークシート内の課題の理解状況を把握したうえで、記入された質問を加えて、次回授業において補足説明を行います。	

○その他	
指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できること・理解できないことを明確にして下さい。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業後はワークシートの課題や解説を加えた教科書の図表や文章を中心に復習を行い、疑問等は提出前にワークシートに書き込んで下さい。 授業において使用したワークシートは授業後にjpegまたはpdf形式でユニパ上に提出して下さい。授業で使用したワークシートは手元に残りますので、授業後の復習や期末試験への準備として活用して下さい。	

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学 (Regional Geography) 土居 晴洋	授業コード	EK00551
学修内容				
1. 地誌学とは何か				
地理学の歴史は人類の未知なる地域への探索の歴史でもある。世界史的に有名な探検家による冒険的活動や軍事的要請などを含めて、人は外の地域を知りたく思い、どこに何があり、どのような特質があるのかを理解しようとした。それらによって得られて地域に関する情報を蓄積することで、地域ごとに特徴があることや地域が異なっても共通する特徴があることを明らかにしてきた。地理学の歴史とも絡めて、地誌学とは何かについて考えていく。				
予習	中学校「社会科(地理的分野)」, 高校「地理A・B」でどのようなことを学んだかを思い出す。			約1時間
復習	ワークシート、ノートをもとに復習する。			約1時間
2. 大分市と別府市, それぞれの個性				
本学の学生にとってもなじみ深い大分市と別府市を取り上げ、地誌学の視点で地域を見ることの面白みを感じたい。大分県を代表する二大都市である両市は境界を接し、通勤・通学や様々な経済活動などのために、日々両市の間を往来する市民も少なくない。しかし、両市は明らかに異なる特徴を持ち、私たちの両市に対するイメージも異なる。なぜそのように両市の特徴やイメージ、つまり個性が異なるのかを自然条件や歴史的背景、両市の外部にある条件などから考察していく。				
予習	本学が所在する大分市や隣接する別府市はどのような場所なのかを自らの経験をもとに整理する。			約1時間
復習	ワークシート、ノートをもとに復習する。			約1時間
3. 国・地域とは何か				
地誌学で考察対象とする、国や都道府県、市町村は、一定の意味のある空間的領域を有する「地域」である。普段あまり疑問を持たずに使用する「国」や「地域」の概念は何なのか、また通常、一定の空間的領域を有する国や県などの地域はどのような指標から構成されるのかを理解する。また、一つの地域は均質ではないため、二つ以上の領域に区分(地域区分)されることがある。地域区分の具体的な例として日本列島を二つに区分する指標を考える。				
予習	教科書222、251、265ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
4. 中国の国土と自然				
世界最大の人口大国であるとともに、21世紀の世界の政治経済を動かす鍵を握る中国について、4時間をかけて学習する。その第1回は、地球の中における中国の絶対的・相対的位置を確認し、それが中国を理解するうえでどのような意味を持つのかを理解する。また、広大な国土を持つ中国は地域による気候・地形環境の違いを通じて、中国を空間的な広がりとして理解する視点を身に付ける。				
予習	教科書43、104、224-229、232-233ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
5. 中国の政治と経済発展				
地域を空間的広がりとして捉えることとともに、時間的推移の中で地域を捉えることも重要である。中国はそのような視点を持つことが如何に大事であるかを理解させてくれる存在である。清朝末期から中華民国、中華人民共和国の成立から現代に至る様々な出来事が、政治的経済的大国へ変貌しつつある現代中国を理解する鍵を提供してくれる。				
予習	教科書224-233、253、263ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
6. 中国の産業の動向				
近年の中国の経済発展を支えてきた製造業を中心とする産業に注目する。かつて世界第2位のGDPを誇っていた日本と発展途上国として経済成長を追い求めていた中国の立場が入れ替わった現在において、そのような変化の原動力となった製造業などの産業の発展の経路や地域的特質を理解することは、これからの日中関係や国際経済を予測するうえで有益である。				
予習	教科書104-105、158-159、224-228ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
7. 中国の社会変化				
近代的なビル群や工場などの製造業の現場など、ニュースなどを通して見る中国社会は、画面に映る文字が漢字であることもあって、日本とさして違いがないように感じてしまう。しかし、前時までで見てきた中国の変化や現状を支える社会の特質は日本とは大きく異なる。20世紀半ば以降の人口動態や多民族社会であること、地域コミュニティのあり方などを通して、中国社会の特質と近年の変化の諸相を理解する。そのことは国際化が進む現代世界や日本のあり方を考える基礎ともなる。				
予習	教科書104、196、228-232ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
8. インドの国土と自然				
インドは比較的遠いこともあり、ヒンズー教などの固定的イメージを含めて、日本においては十分に理解されているとはいえない。しかし、インドはまもなく中国を追い抜いて世界第1位の人口大国となることが確実であるほか、世界の政治経済において重要性が急速に増している。インドを理解する第一歩として、地球上の位置や国土の広さや地域的多様性を気候や地形などの自然的要素を基盤として理解する。				
予習	教科書9、12-13、16、196-197、242-244ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間

○授業計画	科目名 担当教員	地誌学 (Regional Geography) 土居 晴洋	授業コード	EK00551
学修内容				
9. インドの歴史とカースト社会				
ヒンズー教やカースト制度は、日本人がインドにいたくイメージの代表格である。しかし、ヒンズー教やカースト制度は、インドの歴史そのものといっていいほどの長い歴史を有し、なおかつ現代のインドに生きる人々の生き方や価値観にも関わるものである。都市や農村地域における、それらが現れた様子を紹介しながら、インド社会の特質を考察していく。またこれらを中心として展開する現代インドの宗教や言語の特徴をあわせて考察する。				
予習	教科書220-221、243-245ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
10. インドの農村・農業の近代化				
多様で厳しい自然環境を持つインドでは、各地でその自然環境を基盤として農業が営まれてきた。しかし、前時で学んだ社会的特質やイギリスによる植民地経営にも影響され、必ずしも豊かな農業生産が達成されていたわけではない。インドの経済発展は都市部ばかりでなく、近年は農村地域が確実に成長し豊かになりつつあるといわれる。そのような農村や農業の発展が如何になされたのかを理解する。				
予習	教科書65、86-87、89、96-99、109ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
11. インドのIT産業と経済発展				
中国の影に隠れて見えにくいのが、現代インドの経済発展は著しく、それを牽引するのがIT産業である。インドでIT産業を中心として経済発展が進展しつつある理由や背景を理解するには、グローバルな視点とローカルな視点の両者が必要である。これらの視点から現代インドの製造業やIT産業の地域的特質を理解するとともに、近い将来の世界経済におけるインドの果たす役割を展望する。				
予習	教科書163-164、198ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
12. 身近な地域の地誌(北海道・東北地方)				
地誌学の最後4回は日本の各地域の地誌学的特質を考察する。北海道と東北地方は、その絶対的位置と相対的位置の特質を基盤として、明治以降の日本の近代化を支える存在であった。また、両地域は現代日本の食糧事情や余暇活動において極めて重要な役割を果たしている。なぜ両地域が日本にとって、このように重要な存在であるのかを考察する。また、東日本大震災を事例に、自然災害がもたらす現代社会への教訓についても考えたい。				
予習	教科書292-295ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
13. 身近な地域の地誌(関東～中部地方)				
首都である東京を抱え、20世紀半ばの日本の高度経済成長を支えた地域として、関東地方と中部地方を理解する。これらの地域には地場産業から重厚長大型産業、先端技術産業まで幅広く揃い、日本の近現代の経済成長の基盤を提供してきた。また、太平洋沿岸地域と日本海沿岸地域、そして内陸地域で、地域の特質には大きな違いがある。なぜ、そのような地域的差違が生まれたのかを、自然条件や相対的位置の観点から考察したい。				
予習	教科書25、70、121、148、149、288-291ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
14. 身近な地域の地誌(近畿・中国・四国地方)				
自然環境の特質から、近畿・中国・四国地方は大きく三つの地域に分けられる。それぞれの自然環境を基盤として、独自の歴史、文化、産業を形成し、わが国の近代化と経済発展に重要な役割をはたしてきた。その一方で、今や人口減少に突入した日本を考えるうえで、その原点ともいべき過疎化が先鋭的に現れた地域でもある。これらの地域が持つこのような特徴が生み出された原因や原動力を自然環境や位置の問題として理解していく。				
予習	教科書125、177、284-287ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
15. 身近な地域の地誌(九州地方)				
九州・沖縄地方は本学の多くの学生の郷里であり、自らの経験をもとに「わかったつもり」になっている地域である。しかし、日本の他地域との比較を通して、また九州各地の自然環境や歴史的経緯、他地域との関わりなどを通して見ることで、客観的に自らの地域を捉え、その特徴を理解することができる。可能であれば、学生各々の場所の体験も踏まえながら、九州の多様で重層的な地誌学的特徴を理解していきたい。				
予習	教科書21、71、125、282-283ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。			約1時間
復習	講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。			約1時間
16. 期末試験				
期末試験				
予習	教科書および授業内容をしっかり復習する。			
復習				